

1. 調査報告概要表

作成日 平成19年9月22日

【評価実施概要】

事業所番号	1070900459
法人名	社会福祉法人 みやび会
事業所名	グループホーム ふじの里
所在地	群馬県藤岡市中大塚607-4 (電話) 0274-22-7300

評価機関名	サービス評価センター
所在地	群馬県前橋市大友町2-29-5 コミュン100-1B
訪問調査日	平成19年9月12日

【情報提供票より】平成19年8月4日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 17 年 8 月 1 日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	8 人 常勤 6人 兼務 非常勤 2人

(2) 建物概要

建物構造	(鉄筋) 造り 1階建ての 階 ~ 1階部分
------	---------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000 円	その他の経費(月額)	2,100 円	
敷金	有() 円	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,500 円			

(4) 利用者の概要(8月4日 現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	1 名	要介護2	5 名		
要介護3	3 名	要介護4	名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 82.8 歳	最低	75 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	くすの木病院
---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの造りは明るく自然光が多く注がれ、居室のカーテンや壁紙等の色合いも良く落ち着いて過ごせる環境である。居室は利用者の持ち込みの品が多くその人らしさがある。居室のドアを入ると、もう一枚の戸があって自宅の部屋を感じさせる環境になっており、洗面台やトイレが設置されていることから清潔面に配慮されている。管理者と職員は利用者中心のケアサービスの提供を目指し、自由でその人らしく穏やかにその人のペースで毎日が暮らせるように支援している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>運営理念を具体化し分かりやすく表示し掲示をしている。見当識を補う時計やカレンダーは大きさや見やすい位置に工夫されている。玄関の鍵は常態化させずに開放時間を設けるようにしている。利用者の自己決定は選択しできる機会を多く作っている。救急救命講習は全職員が受けている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>サービス評価の意義や目的を全職員に伝え、全員で自己評価に取り組んでいる。また、外部評価の結果に基づき改善に取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>定期的開催をし、事業所からの報告を行い参加者から質問や意見、要望を受けるようにしている。外部評価の結果に基づき、選択メニュー実施の継続や地域の広報活動(回覧板)の内容に意見をいただき運営に活かしている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>運営推進会議に参加してもらい意見や要望を聞いている。週1回の選択メニューを継続してほしいとの家族の希望で継続している。月1回の通信に苦情や意見、要望を言ってほしい旨を掲載したり、何でも言いやすい雰囲気づくりに配慮するようにしている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>運営推進会議に地域の方に参加してもらい、散歩時に挨拶を交わす、ボランティア(話相手等)慰問を受け入れている。また、近隣者から野菜作りのアドバイスをもらうなどの交流がある。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとしての理念の見直しは行っていない。	○	地域密着型サービスの意義を全職員で確認し、地域生活の継続性と事業所と地域の関係性を全職員で話し合い理念の見直しをしてほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月1回会議で話をすることや日常の中で気づいた時、その都度取り組み共有している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議に地域の方の参加や散歩時に挨拶を交わしたり、ボランティア(話し合いて等)の慰問を受け入れている。また、近隣者から野菜作りのアドバイス等の交流がある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義や目的を全職員に伝え、全員で自己評価に取り組むようにしている。また、外部評価の結果に基づき改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催をし、事業所の報告を行い、参加者から質問や意見、要望を受けようとしている。外部評価の結果に基づき、選択メニュー実施の継続、広報活動(回覧板)の内容などの意見が出て運営に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に担当者の参加を依頼し、介護相談員を受け入れている。また、窓口を訪問したり電話等で事業所から積極的に関係を持つようになっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回、利用者一人ひとりの家族に健康チェック表と通信欄に暮らしぶりを書き送付している。活動報告や職員の異動等も書面で報告をしている。活動内容の写真はアルバムにし、来訪時に見てもらっている。また、希望があれば個別介護日誌も読んでもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にも家族の方に参加してもらい意見を聞いている。月1回の通信に苦情や意見・要望を言ってほしい旨を掲載している。また、何でも言いやすい雰囲気づくりにも配慮している。週1回の選択メニューも家族の意見で継続している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの職員が対応することが大切と考え、職員の固定化をはかり、ケアサービス提供に心がけている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修にはなるべく参加をしている。研修報告は、毎月の会議で伝達を行い資料は全職員が閲覧できるようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交換研修を行う、事業所との馴染みの関係を深め情報交換や相談も気軽にするなど交流を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族が事業所を見学する、事業所から自宅を訪問する等、安心感を持って利用してもらえるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	洗濯物たたみや食事づくり、野菜づくり、草むしり等の日常生活を共にしながら、職員は利用者から行事食等について教えられる場面がある。		
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で言葉かけを行い把握に努めている。選ぶことができる場面づくりを行い本人が自己決定できる機会を多くするようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族に介護計画を作成する前に意見を聞くことやケース会議で気づきや情報を話し合い作成して、家族に説明を行い承諾してもらっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的見直し(6ヶ月に)と状態の変化による随時の見直しをしており、ケース会議で評価をしているが記録されていない。	○	新たな要望や変化が見られない場合も、定期的見直し期間が6ヶ月ではなく、より実践的な対応ができる期間の見直しを検討するようにしてほしい。また、ケース会議で評価を行っている結果を記録に残してほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	緊急時以外の通院や理・美容院への支援を柔軟に対応するようにしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医になっている。また、受診や通院は本人、家族の希望に応じて柔軟に対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	状況の変化に応じてその都度、家族と繰り返し話し合いを行い希望に添った支援をして行くようにしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	守秘義務の徹底と日々の関わり方で利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応に心がけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者中心で自由で時間にとらわれず、言葉かけを行うことで気持ちを把握して、気持ちに添って支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事担当者が利用者に聞きながら献立を作成し、食事準備を共に行っているが、職員と利用者が一緒に食事は食べていない。	○	利用者と一緒に採ってきた野菜と一緒に調理をするなど、食事作りの過程を一日の大切な活動の一つとしている。全職員で話し合い同じテーブルを囲んで楽しく食事ができるようにしてほしい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員が一方向的に決めず、利用者の希望に応じたり、タイミングに合わせるなどの工夫をし支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらおうよう、出来そうなことを頼み(食事づくり、片付け、草むしり等)、感謝の言葉を伝えるようにしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や利用者の体調、希望に応じ、心身の活性につながるよう日常的に散歩をする、買い物に出かける、庭でお茶をする、花見に行く等出かける機会をつくり外気に触れるようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵は常態化せず、職員の見守りを徹底して時間を決めて、開放して(11時～13時)、自由な暮らしを支援するようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急連絡網を作成し、年2回利用者と共に避難訓練を行っているが、地域の協力体制については呼びかけをしていない。	○	災害はいつ、どの時間帯に起きるか分かりません。職員だけの誘導にも限界があり、日頃より地域住民の協力は必要であるため、運営推進会議等で協力依頼をしてほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は法人の栄養士に栄養バランスの状況をチェックしてもらい助言をもらっている。食事や水分摂取状況は少ない時に個人介護日誌に記録をしている。	○	食事や水分摂取量が少なくなってから記録をするのではなく、毎日、食事や水分摂取量チェックを行い記録することを検討してほしい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所はオープンになっており食事準備が見え、ご飯の炊ける匂いが漂っている。ホールの壁に絵画や風景写真が飾られている。また、畳コーナーや壁に懐かしさを感じる着物が掛けてあり、ホールのテーブルと椅子・ソファークッションの間に籐の衝立も置かれ、落ち着いて過ごせる環境に配慮されていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族写真や家具・寝具等が持ち込まれて、利用者の個性ある居室環境になっている。		